

目 次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード（ことば編）
- 3 童謡 村の鍛冶屋
- 4 回文 ルスヲスル
- 5 今月の詩 さむいゆうやけ 北原白秋
- 6 たし算 順番足し算
- 7 ことわざ もぬけの殻 柳に風 焼け石に水
弓折れ矢尽く 月夜に提灯
- 8 うた わけっここのうた
- 9 俳句 与謝蕪村 小林一茶 芥川龍之介
- 10 かぞえうた 3畳 6畳 9畳 (部屋)
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた はないちもんめ
- 13 今月のうた 国名しりとり
- 14 慣用句 虫がいい 口を合わせる お茶を濁す
- 15 イメージトレーニング スティーム (第11話 アンドロメダ銀河M31)
(イメージしてみましょう)
- 16 おはなし かもとりごんべえ
- 17 漢詩 遊子吟
- 18 百人一首 源宗于朝臣 順徳院 大江千里 天智天皇
- 19 復習コーナー
- 20 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

ルスヲスル



るすをする



さむいゆうやけ

きたはらはくしゅう
北原白秋

ゆうやけ、こやけ、
ひのみとう
火の見の塔に
もう燈がついた。
とっとと走ろ。

ゆうやけ、こやけ、
ぞうき
雑木のやぶに
けぶりも見える。
とっとと走ろ。

ゆうやけ、こやけ、
ゆうかんうりも
かけてく、あぜを。
とっとと走ろ。

ゆうやけ、こやけ、
はむしよ、たつな、
め
眼のなかかゆい。
とっとと走ろ。



ことわざ

もぬけの殻

ねどこいえひとにさあとようす
寝床や家から人が逃げ去ってしまった後の様子。



柳に風

あいてことばうなが
相手の言葉をたくみに受け流すこと。



焼け石に水

すこえんじょどりよく
少しの援助や努力ではまったく効き目がないこと。



弓折れ矢尽く

ちからつ
力尽きてどうすることもできないこと。



月夜に提灯

あかつきよちょうちん
明るい月夜に提灯をともすように、不必要で無駄な
こと。



俳句

雪折れも 聞こえてくらき 夜なるかな
よきおき ききこえてくらき よよよよ
与謝蕪村 よきよき ぶそん



うまそうな 雪がふうわり ふわりかな
ゆき うまそなゆき ふうわり ふわりかな
小林一茶 こばやしげつさ



木がらしや 目刺にのこる 海のいろ
めざし あくたがわりゅうのすけ
芥川龍之介 あくたがわりゅうのすけ



なぞなぞ

- 1 小さな子が悲しいときにかくものはなあに？
- 2 起きているときかかないで、寝ているときにかくものなあに？
- 3 手じゃなくて足でかくものなあに？
- 4 あついとかくものなあに？



《はないちもんめ》

※ A組とB組にわかれてもかいあう。

- ① 〈A〉 ふるさとまとめてはないとちもんめ



Aはまえにすすみ、
さいごに足をまえにける。

- ② 〈B〉 となりのおばさんちょっときておくれ



Aはうしろにさがる。
Bはまえにすすみ、
さいごに足をまえにける。

- ③ 〈A〉 おにがこわくていかれない
〈B〉 おふとんかぶってちょっときておくれ

- ④ 〈A〉 おふとんびりびりいかれない
〈B〉 おかまかぶってちょっときておくれ

- ⑤ 〈A〉 おかまそこぬけいかれない
〈B〉 あのこがほしい

- ⑥ 〈A〉 あのこじやわからん
〈B〉 このこがほしい

- ⑦ 〈A〉 このこじやわからん
〈B〉 そうだんしよう

- ⑧ 〈A〉 そうしよう

①～②のうごきをくりかえす。

- ⑨



A、Bそれぞれでそうだんし、
あいての組からひとりえらぶ。
じゃんけんをして、まけた人は
あいての組にはいる。

- ⑩ 〈かった組〉 かってうれしいはないとちもんめ
〈まけた組〉 まけてくやしいはないとちもんめ

①～②のうごきをくりかえす。

今月のうた

《国名しりとり》

くに なまえ
国の名前の しりとりだ

アメリカ カナダ 大韓民国

クウェート トルコ コモロ ロシア

アルジェリア アンゴラ ラオス

スイス スリランカ カタール ルーマニア

アルメニア アルバニア アラブ ブラジル

ルクセンブルク クロアチア

みんなはいくつ知っている？



注 国名は正式名称でないものもあります。

慣用句

むし
虫がいい

じぶん つごう よい ようにばかり考へる。
自分に都合の良いようにばかり考へる。



くち あ
口を合わせる

なんにん い いつち
何人かで言うことを一致させる。

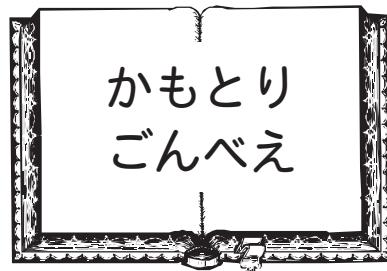


ちゃ にご
お茶を濁す

いいかげんなことを言って、その場をごまかす。

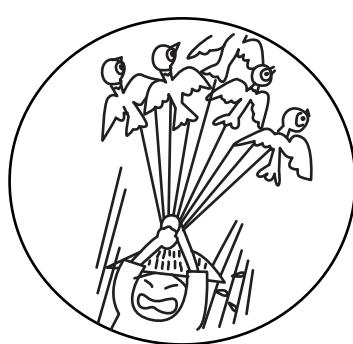
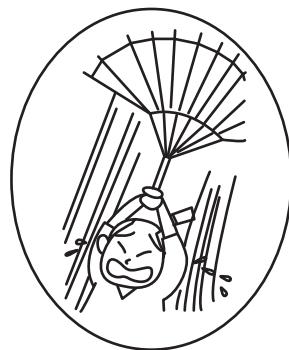


おはなし



「かもとりごんべえ」は、一度に百羽の鴨をつかまえようとする男のお話です。お話を聞いた後で、質問にこたえてみましょう。

- 1 もの語りごんべえの、鉄砲の腕はどうでしたか。
- 2 ごんべえは、一度に百羽捕まえるために、冬になりましたどうしましたか。
- 3 ごんべえは、知らない町のどんなお店で働くことにしましたか。
- 4 ごんべえが池から上がった時、着物の中からでてきたのは何だったでしょうか。そしてそれは、どのくらいありましたか。
- 5 ごんべえは、どういう決心をしたのですか。



慈母の手中の線
遊子に身上の衣
意に恐るに臨みて
行くに遅遲として密密に縫う
誰か言ふ寸草の心
意に報い得んとは

遊子吟
孟郊

百人一首

秋 あき
 かのり田た
 わほの
 がの
 衣い庵お
 手ての
 は
 苦とま
 露つゆを
 にぬれ
 つ
 つ

月 つき
 千々ちぢにれば
 わが身み物もの
 一ひとそ
 の
 悲かな
 秋あきにけ
 にはあらねど

ももし
 古ふるき
 軒のき端ばの
 なほ
 あまりある
 しのぶに
 も

里さと
 ぞ寂さび
 人ひとも
 目めも
 草くさも
 カれぬと
 思おもへ
 ば

山やま
 冬ふゆ
 は

まさりける
 しさ
 まさりける
 おもへえ

(源みなもとのむねゆき宗あ于そん朝あそ臣そん)

(順德院)

順徳院

